毎日歌壇

米川千嘉子 選

就活は楽しむものと言う人のスーツに皺を探してしまう　京都市　小池ひろみ

〈評〉勝敗よりもまず楽しむこと。スポーツなどでもよく聞くが就活もそう？　その人の苦労や疲れの跡を探してしまう作者。

わが猫を合同墓に納めれば東京都のゾウも同じ天国　東京　河野多香子

〈評〉猫を葬った動物霊園には都の動物園の生き物も眠っていた。結句が楽しい。

「新しい戦前」「戦う覚悟」など不吉な言葉染み出る令和　西海市　まえだいっき

野菜にも見つけてしまう人の顔はいつでも人を気にして　倉敷市　中路　修平

くるくると傘を回してきみたちは誰ひとり欠かせない歯車　松原市　たろりずむ

原爆をただの大きなバクダンと話しこんでた若者に喝！　高槻市　佐々木文子

いつも菓子まけてくれてたおばちゃんのあの駄菓子屋は今はドンキに　郡山市　寺田　秀雄

首にぶら提げたIDカード見る一流企業血統書なり　前橋市　西村　晃

離婚再婚子の独立を通り抜け姉とふたたび親友になる　千葉市　芍　薬

グテーレスさん「地球沸騰の時代」とふ昨夜の風呂が冷めずに朝風呂　幸手市　中村　早苗

加藤　治郎 選

穴のないドーナツ好きと自己紹介　季節はずれに転校した日　東京　新井　将

〈評〉印象的な自己紹介である。誰にもこうは語れない。ドーナツと転校の季節どちらも自由な一人の人間が感じられる。

新しいノートの匂いがする貴方　やっぱり好きだな忘れられない　横浜市　荒田絵里子

〈評〉清潔で誠実な人間性まで伝わってくる。思い出のなかにあっても新しいのだ。

ジーパンの皺はこんなに硬いんだ　僕の身体は木星になる　戸田市　水沢わさび

君の乗る電車が闇に消えてゆき闇と永遠なら同義語だろう　堺　市　初夏みどり

水色の水風船を破る夢をいくつもみたらきみは笑うの　平塚市　芝澤　樹

稲妻にいっぱい飛ばせしゃぼん玉いつの日か今を愛したくなる　川崎市　何村　俊秋

巻いていたカルボナーラがほどけてくあなたとわたし似てんじゃないの　横須賀市　森久保りりか

かんむりをかぶればここの住人と言われ何かがおかしい原っぱ　大津市　世田　夏雪

浜に百合　僕は花火になれなくて灯台として季節を過ごす　船橋市　中村　佐貴

信じても愛することはできないと思った時の緑の深さ　東京　小波　月子

水原　紫苑 選

あのひともあのひとの後悔も老いる絵画のそとの異国のように　花巻市　永汐　れい

〈評〉絵画の外側を異国と見て、絵画の中の永遠に飛び込もうとする魂の垂直性が痛ましく美しい。

店員のひざまずく所作うつくしく裾上げを待つわたくしは塔　千葉市　芍　薬

〈評〉日常の中で、ふと存在が人間を離れて厳然とそびえ立つ瞬間がある。

白鯨の腹を見上げてビル街をゆく人として夏をはじめる　横浜市　青水　時

泉から椅子が生まれる空想はしばらく眺めていると涼しい　枚方市　久保　哲也

寒い蝶　匿っているいもうとの瞳の色を奪い去りたい　平塚市　芝澤　樹

人の死に触れたことなき甥の手は何度も不思議に虹をつかめり　所沢市　神田　望

絵日記にまいにち雲を描いた子　同じかたちは二度とないから　倉敷市　中路　修平

混沌としていることを赦されてローマングラスの瓶は立ちおり　東京　音羽　凜

宇宙にも形があって姪っ子がままごとに敷くハンカチは四角　札幌市　橘　晃弘

流れ込む汚染物質きらきらと　海はぼくらのものではないよ　京都市　夏野　灯

伊藤　一彦 選

百年の計を論じる番組に割り込んでくる豪雨情報　南魚沼市　木村　圭

〈評〉もはや「地球沸騰」の今、悠長に「百年の計」など語っている余裕はないと。下の句のリアルな表現が見事に生きている。

傷口から絶え間なく滲む浸出液のやう永久凍土とけゆく　鹿嶋市　大熊佳世子

〈評〉「傷口から」で始まる上の句の鋭く巧みな比喩が説得力をもって読者に迫る。

レジ袋、ポイントカード、店員は修行のように繰り返しおり　千葉市　芍　薬

渡来せる釈迦如来像のながき爪　救いのちから伝わりてくる　川崎市　大平真理子

普通なら気にせず済ます事だよと普通の人に諭されている　沼田市　山崎　杜人

恋愛のために共学に行くのかと顔を歪めてた友の結婚　東京　秋月　六花

子育ての本を読む九歳の吾子　自己分析か現状把握か　奈良市　久保　祐子

子どもらのいない運動場の昼を新任教師の遊具点検　神戸市　綾　香音

明日また新しい友咲くからと散りてゆくなり木槿の花は　仙台市　小野寺寿子

蟷螂の斧に過ぎぬと思へども小論を寄す「みんなの広場」　静岡市　安藤　勝志

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や、同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁です。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。

入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開し、本社が作成または許諾した出版物やメディアに掲載することがあります。